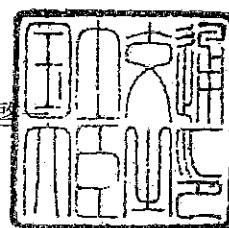


認 定 書

国住指第 1177 号
令和元年 9 月 9 日

大和建材工業株式会社
代表取締役社長 岡本 健太郎 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FP030RF-1065-2(2)

2. 認定をした構造方法等の名称

裏打材 [合成樹脂系又は無機質系] 裏張・葺材 [アルミニウム合金板製、鋼板製、ステンレス鋼板製、銅合金板製又はチタン板製]・木質系セメント板・ロックウール吸音材表張/軽量鉄骨下地屋根

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

裏打材 [合成樹脂系又は無機質系] 裏張・葺材 [アルミニウム合金板製、鋼板製、ステンレス鋼板製、銅合金板製又はチタン板製] ・木質系セメント板・ロックウール吸音材表張/軽量鉄骨下地屋根

2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
支持部材の間隔	構造計算により構造安全性が確かめられた寸法
たるきの間隔	607mm以下
葺材	仕様：①～⑥の一 ①横葺 働き幅：175～607mm ②縦葺 働き幅：175～607mm ③瓦棒葺 働き幅：200～607mm ④立平葺 働き幅：175～607mm ⑤平滑葺き 働き幅：200～607mm ⑥折板葺 働き幅：200～800mm

3. 仕様の主構成材料：

仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項目	仕様
たるき	材料：一般構造用軽量形鋼 (JIS G 3350) 形状：□ 形又は角形 寸法：①又は② ①□ - 100×50×20×2.3mm以上 ②□ - 100×50×2.3mm以上 間隔：607mm以下
葺材	仕様：①～⑤の一 塗装品の塗布量：70g/m ² 以下 (有機質量)
① アルミニウム合金板	材料：1)又は2) 1) 塗装アルミニウム板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8597、NM-8598のカラーアルミ)、(JIS H 4001) 厚さ：0.5～1.3mm 2) アルミニウム板 (JIS H 4000)、(JIS H 4100)、又は (平成12年建設省告示第1400号) 厚さ：0.5mm以上 降伏点：35N/mm ² 以上
② 鋼板	材料：1)～18)の一 1) 塗装熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322) 2) 熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) 3) 塗装熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) 4) 熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) 5) 塗装熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318) 6) 熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) 7) 熔融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) 8) 両面ポリエステル樹脂系塗料/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9583、NM-9584) 9) フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9662) 10) 両面アクリル樹脂系塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8341、NM-8514) 11) 建築構造用熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0069、0070、0064及び0065) 12) フッ化ビニリデン樹脂系塗装/両面アクリル・塩化ビニル樹脂系塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8400) 13) アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8027) 14) ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8028) 15) 塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697) 16) 熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) 17) 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) 18) 高耐候性圧延鋼材 (JIS G 3125) 厚さ：0.35～0.8mm 降伏点：205N/mm ² 以上

つづく

つづき

<p>裏材</p> <p>③ ステンレス鋼板</p>	<p>材料：1)～5)の一</p> <p>1)熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304)</p> <p>2)冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)</p> <p>3)塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320)</p> <p>4)塗装ステンレス鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8316～8326)</p> <p>5)両面ポリエステル樹脂系塗装/亜鉛めっきステンレス鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697)</p> <p>厚さ：0.35～0.8mm</p> <p>降伏点：205N/mm²以上</p>
<p>裏打材</p>	<p>④銅合金板</p> <p>材料：伸銅品(JIS H 0500)又は(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8586～NM-8595の一)</p> <p>厚さ：0.30～0.8mm</p> <p>降伏点：205N/mm²以上</p>
<p>裏打材</p> <p>① 合成樹脂系</p>	<p>⑤チタン板</p> <p>材料：チタン展伸材(JIS H 4600)、(JIS H 4657)、又は(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8596)</p> <p>厚さ：0.30～0.8mm</p> <p>降伏点：205N/mm²以上</p> <p>仕様：①又は②</p> <p>厚さ：4mm以下</p> <p>密度：25kg/m³以上</p> <p>材料：1)～9)の一</p> <p>1)ポリエチレンフォーム 組成(質量%)： ポリエチレンフォーム 99.5以下 発泡剤等 0.5以上</p> <p>2)ポリエチレンフォーム 組成(質量%)： ポリエチレンフォーム 87.0以下 難燃剤(テトラプロモフタルイミド等) 8.7以上 無機質 4.3以上</p> <p>3)無機質高充填フォームプラスチック 組成(質量%)： ・有機系樹脂：43以下 エチレン酢ビ共重合体等有機質 エチレン酢ビ共重合体 ; 80～95 オレフィン系樹脂 ; 5～20 ・無機質系充填剤：46以上；i)又はii)</p> <p>i)水酸化マグネシウム ; 21以上 水酸化アルミニウム ; 23以上 三酸化アンチモン ; 2以下</p> <p>ii)水酸化アルミニウム ; 38以上 三酸化アンチモン ; 8以下</p> <p>・難燃剤他：11以上 臭素系難燃剤 ; 7以上 (デカブロモジフェニルエーテル) 三酸化アンチモン ; 4以下</p>

つづく

つづき

裏打材	① 合成樹脂系	<p>4) オレフィン樹脂系フォーム 組成(質量%) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機系樹脂 : 41 <ul style="list-style-type: none"> オレフィン系樹脂 ; 37 アゾジカルボンアミド ; 1 ジカルバミルヒドラジン ; 1 ヒドラゾジカルボンイミド ; 1 有機系顔料(イソインドリノン系) ; 1 ・難燃剤 : 59 <ul style="list-style-type: none"> 水酸化マグネシウム ; 21 水酸化アルミニウム ; 23 三酸化アンチモン ; 4 臭素系難燃剤 ; 11 <p>(デカプロモジフェニルエーテル)</p> <p>5) ポリエチレンフォーム 組成(質量%) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機系樹脂 : 39.0(±3.0) <ul style="list-style-type: none"> ポリエチレン系樹脂 ; 39.0(±3.0) ・充てん材 : 5(±0.05) <ul style="list-style-type: none"> 有機チタン化合物 ; 2.0(±0.05) 金属脂肪酸塩 ; 1.5(±0.05) 酸化亜鉛 ; 1.0(±0.05) 有機系酸化防止剤 ; 0.5(±0.05) ・難燃剤 : 56(±2.0) <ul style="list-style-type: none"> 水酸化アルミニウム ; 38.0(±2.0) 臭素系難燃剤 ; 12.0(±1.5) <p>(デカプロモジフェニルエーテル)</p> <p>三酸化アンチモン ; 6.0(±0.7)</p> <p>6) 水酸化マグネシウム混入/エチレン-酢酸ビニル樹脂系フォーム 組成(質量%) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機系樹脂 : 40.2 <ul style="list-style-type: none"> エチレン-酢酸ビニル樹脂 ; 40.2 ・難燃材 : 59.8 <ul style="list-style-type: none"> 水酸化マグネシウム ; 32.2 水酸化アルミニウム ; 14.1 臭素系難燃剤 ; 9.1 <p>(デカプロモジフェニルエーテル)</p> <p>三酸化アンチモン ; 4.4</p> <p>7) ポリエチレン樹脂系フォーム 組成(質量%) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機系樹脂 : 40(±4.0) <ul style="list-style-type: none"> ポリエチレン系樹脂 ; 40(±4.0) ・難燃材 : 59(±3.2) <ul style="list-style-type: none"> 水酸化マグネシウム ; 32(±3.2) 水酸化アルミニウム ; 14(±1.4) 臭素系難燃剤 ; 9(±0.9) <p>(デカプロモジフェニルエーテル)</p> <p>三酸化アンチモン ; 4(±0.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・添加剤 : 1(±0.1) <ul style="list-style-type: none"> 加工助剤(シリコンオイル) ; 0.6(±0.05) 酸化防止剤(ヒンダートフェノール系) ; 0.4(±0.05)
-----	---------	--

つづく

つづき

裏打材	① 合成樹脂系	<p>8) ポリエチレン樹脂系フォーム 組成(質量%) :</p> <p>ポリエチレン系樹脂 37.5(±3.7) 水酸化マグネシウム 22.3(±2.2) 水酸化アルミニウム 23.8(±2.3) 酸化アンチモン 3.8(±0.4) 臭素系難燃剤 11.5(±1.1) 有機系顔料 1.1(±0.1)</p> <p>9) ポリエチレン樹脂系フォーム 組成(質量%) :</p> <p>ポリエチレン系樹脂 40(±4.0) 水酸化マグネシウム 32(±3.2) 水酸化アルミニウム 14(±1.4) 酸化アンチモン 4(±0.5) 臭素系難燃剤 9(±0.9) 有機系添加剤 0.5(±0.05) (ヒンダートフェノール系酸化防止剤等) 有機系顔料(アゾ系顔料等) 0.5(±0.05)</p>
	② 無機質系	<p>材料 : 1) ~6) の一</p> <p>1) ポリエステル系繊維不織布張/グラスウール保温板(国土交通大臣認定不燃材料 : NM-8375)</p> <p>2) ポリエステル樹脂系繊維不織布張ガラス繊維シート : a) 及びb)</p> <p>a) ガラス繊維シート 組成(質量%) :</p> <p>ガラス繊維 82以上 ポリエステル樹脂 13以下 アクリル樹脂 5以下</p> <p>b) ポリエステル樹脂系繊維不織布 単位面積質量 : 40g/m²以下</p> <p>3) 合成樹脂エマルジョン処理ポリエステル不織布張ガラス繊維シート : a) 及びb)</p> <p>a) ガラス繊維シート 組成(質量%) :</p> <p>ガラス繊維 90以上 ポリエステル樹脂 10以下</p> <p>b) 合成樹脂エマルジョン処理ポリエステル不織布 : a) 及びb)</p> <p>a) ポリエステル不織布 20g/m²以下(片面10g/m²以下) b) 合成樹脂エマルジョン 30g/m²以下(片面15g/m²以下) 組成(質量%) :</p> <p>りん含クロム系(防炎剤) 50(±5) 塩化ビニルエマルジョン 40(±4) アクリルエマルジョン 10(±1)</p> <p>4) ポリエステル不織布張ロックウールフェルト : a) 及びb)</p> <p>a) ロックウールフェルト 組成(質量%) :</p> <p>ロックウール 97以上 アクリル樹脂 3以下</p> <p>b) ポリエステル不織布 単位面積質量 : 15g/m²以下</p>

つづく

つづき

葺材	②無機質系	<p>5) ポリエステル不織布張アルミナシリケート繊維不織布シート：a) 及びb)</p> <p>a) アルミナシリケート繊維不織布シート 組成(質量%)： アルミナシリケート繊維 96以上 エチレン酢酸ビニル樹脂 4以下</p> <p>b) ポリエステル不織布 単位面積質量：15g/m²以下</p> <p>6) 人造鉱物繊維保温材(JIS A 9504) 種類：グラスウール</p>
裏打材張付用 接着剤	<p>材料：①～⑦の一</p> <p>①合成ゴム系 ②アクリル系樹脂 ③ウレタン系樹脂 ④エポキシ系樹脂 ⑤クロロプレンゴム系 ⑥ホットメルト(合成ゴム系) ⑦熱蒸着</p> <p>塗布量：50g/m²以下(有機質量)</p>	
野地板	<p>材料：①、②及び③</p> <p>厚さ：20(-2)～75(+1)mm</p> <p>①下張材(ロックウール吸音材) 材料：i) 又は ii)</p> <p>i) 吸音材料(JIS A 6301) 種類：(1) 又は(2) (1) ロックウール吸音ボード 一号、二号又は三号品 (2) ロックウール化粧吸音板</p> <p>ii) 化粧グラスウールボード(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8610) 厚さ：9～25mm 密度：40kg/m³以上</p> <p>②上張材 材料：木質系セメント板 材質：a)～e)の一</p> <p>a) 中質木毛セメント板(JIS A 5404)、(国土交通大臣認定準不燃材料：QM-9701)</p> <p>b) 硬質木毛セメント板(JIS A 5404)、(国土交通大臣認定準不燃材料：QM-9701)</p> <p>a) 及びb)の密度：0.7g/cm³以上</p> <p>c) 水酸化アルミニウム・木毛混入/セメント板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0597)</p> <p>d) 木毛繊維混入セメント板(国土交通大臣認定準不燃材料：QM-0866)</p> <p>c) 及びd)の密度：0.9g/cm³以上</p> <p>e) 木毛パーライトセメント板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0236) かさ比重：0.8(±0.08)以上 厚さ：20(-2)～50(+1)mm</p> <p>③張合材 材料：a)～d)の一</p> <p>a) 酢酸ビニル系接着剤 塗布量：100g/m²以下(有機質量)</p> <p>b) 無機質系接着剤 塗布量：200g/m²以上</p> <p>c) 工業用ステーブル(JIS A 5556) 寸法：内幅4×足長10mm以上</p> <p>d) くぎ(JIS A 5508) 長さ：20mm以上</p>	

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様
たるき取付金具	材料：①及び② ①一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 寸法：L-75×65×6mm以上 ②一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 寸法：平鋼FB-6×75×65mm以上 (たる木ダブル部位仕様) 取付間隔：607mm以下 留付材：アーク溶接 溶接幅：2.3mm以上 隅肉溶接長さ：20mm以上 取付箇所：2箇所以上
たるき留付材	材料：①及び②、又は③ ①六角ボルト(JIS B 1180) 寸法：M12×長さ25mm以上 ②ナット(JIS B 1181) 寸法：M12以上 ③アーク溶接 溶接幅：2.3mm以上 隅肉溶接長さ：20mm以上
たるき用耐火被覆	材料：①又は② ①けい酸カルシウム板(JIS A 5430) ②ロックウール吸音材(JIS A 6301) 厚さ：25mm以上 密度：0.4(-0.04)kg/m ³ 以上 留付材：1)及び2) 1)タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4×長さ40mm以上 留付間隔：400mm以下 2)接着材 材質：けい酸ナトリウム系 使用量：265(-25)g/m以上
留付材	野地板用： 材料：タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4.0×長さ40mm以上 留付間隔：425mm以下

つづく

つづき

<p>防水材</p>	<p>材料：①～⑤の一</p> <p>①アスファルトルーフィングフェルト (JIS A 6005) 単位面積質量：1500g/m²以下</p> <p>②合成高分子系ルーフィングシート (JIS A 6008) 厚さ：1.5mm以下</p> <p>③改質アスファルトルーフィングシート (JIS A 6013) 厚さ：2.5mm以下</p> <p>④透湿防水シート (JIS A 6111) 厚さ：1.5mm以下</p> <p>⑤透湿ルーフィングシート 組成(質量%)： 基 材：ポリエチレン不織布 70.9(±3.0) 表面材：ポリエステル不織布 19.0(±2.0) 接着剤：エチレン-プロピレン共重合体 5.0(±0.5) 防滑剤：ブタン内包発泡/アクリル樹脂 3.2(±0.3) 防滑剤：スチレン-アクリル酸共重合体 1.9(±0.2) 厚さ：0.41mm以下 有機質量：1500g/m²以下</p>
<p>止水材</p>	<p>仕様：(1)又は(2)</p> <p>(1)なし (2)あり 材料：1)～4)の一</p> <p>1)EPDM系ゴム 2)ブチルゴム系 3)ポリ塩化ビニル系 4)合成ゴム系ホットメルト</p> <p>使用量：15g/m以下(有機質量：10g/m以下)</p>
<p>吊子 (葺材仕様：①～⑥に使用)</p>	<p>材料：葺材と同じ</p> <p>厚さ：0.35mm以上 (但し、アルミニウム板は厚さ：0.5～2.5mm)</p> <p>幅：35mm以上</p> <p>取付間隔：607mm以下 (但し、⑥仕様の場合は取付間隔：800mm以下)</p>
<p>吊子留付材 (葺材仕様：①～⑥に使用)</p>	<p>葺材仕様①～⑤の場合： 材料：タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4.0×長さ40mm以上</p> <p>葺材仕様⑥の場合： 材料：1)及び2)</p> <p>1)六角ボルト (JIS G 1180) 寸法：M6×長さ20mm以上</p> <p>2)ナット (JIS B 1181) 寸法：M6以上</p>

つづく

つづき

<p>タイトフレーム (葺材仕様：⑥ に使用)</p>	<p>材料：葺材と同じ 厚さ：0.35mm以上 幅：35mm以上 間隔：800mm以下</p>
<p>タイトフレーム留付材 (葺材仕様：⑥ に使用)</p>	<p>材料：(1)又は(2) (1)ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4.0mm×長さ40mm以上 (2)アーク溶接 溶接幅：2.3mm以上 隅肉溶接長さ：20mm以上</p>
<p>キャップ (葺材仕様：②～ ⑥に使用)</p>	<p>仕様：(1)又は(2) (1)なし(はげ締め仕様の場合) (2)あり 材料：葺材と同じ 厚さ：葺材と同じ (但し、アルミニウム板は厚さ：0.5～2.5mm)</p>
<p>ジョイナー</p>	<p>仕様：(1)又は(2) (1)なし (2)あり 形状：①、②又は③ ①T形 ②H形 ③ハット形 材料：1)～8)の一 1)塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) 2)溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 3)塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) 4)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) 5)塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) 6)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) 7)ステンレス鋼板(JIS G 4305) 8)塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320) 厚さ：0.25mm以上</p>

5. 仕様の構造説明図：

仕様の構造説明図を図1～図12に示す。

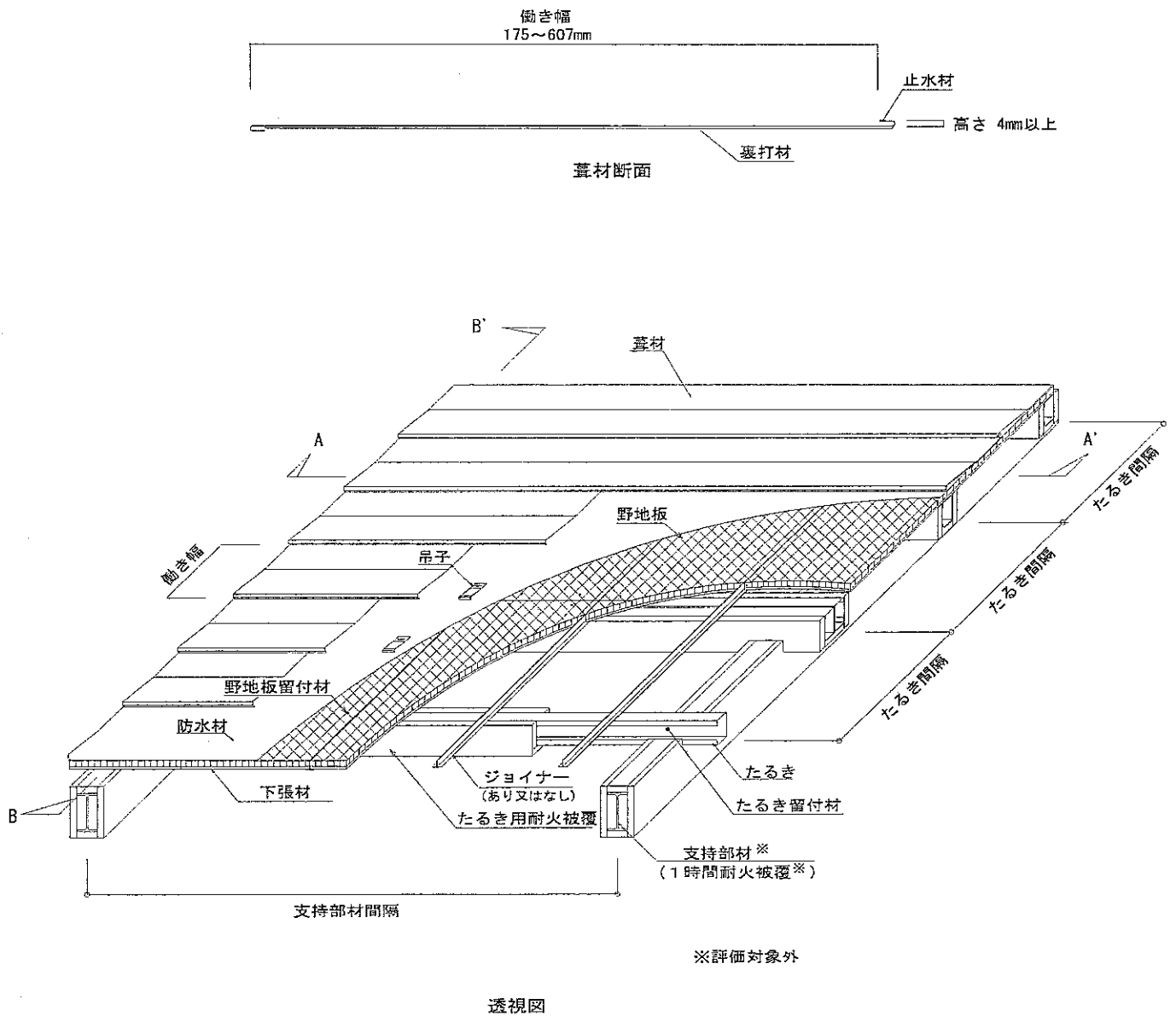
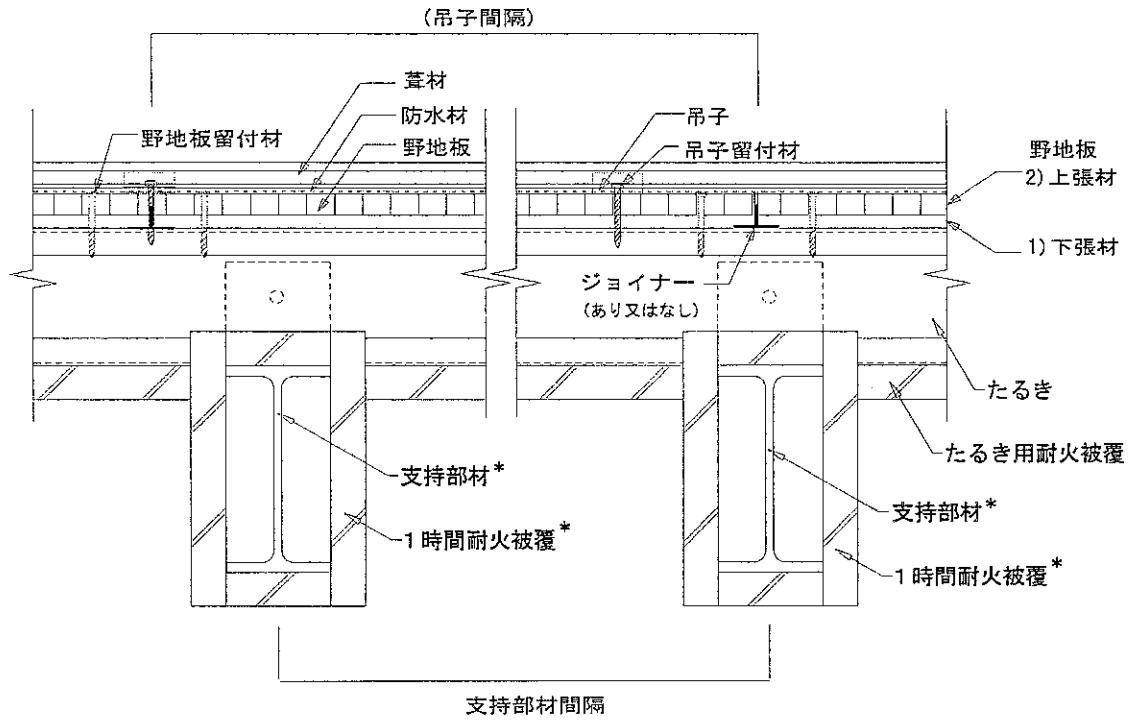
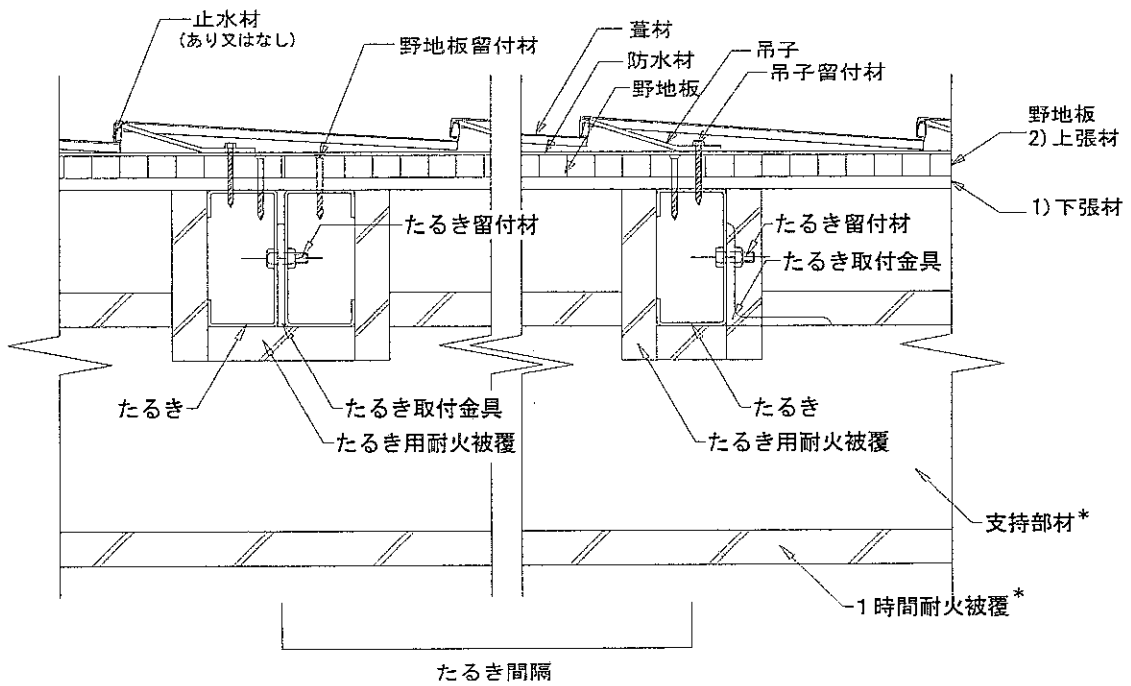


図1 構造説明図〔①横畳仕様〕



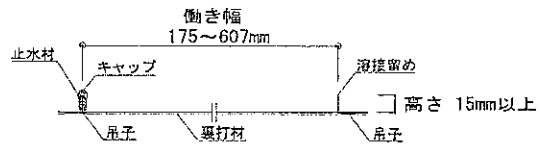
A-A' 断面詳細図



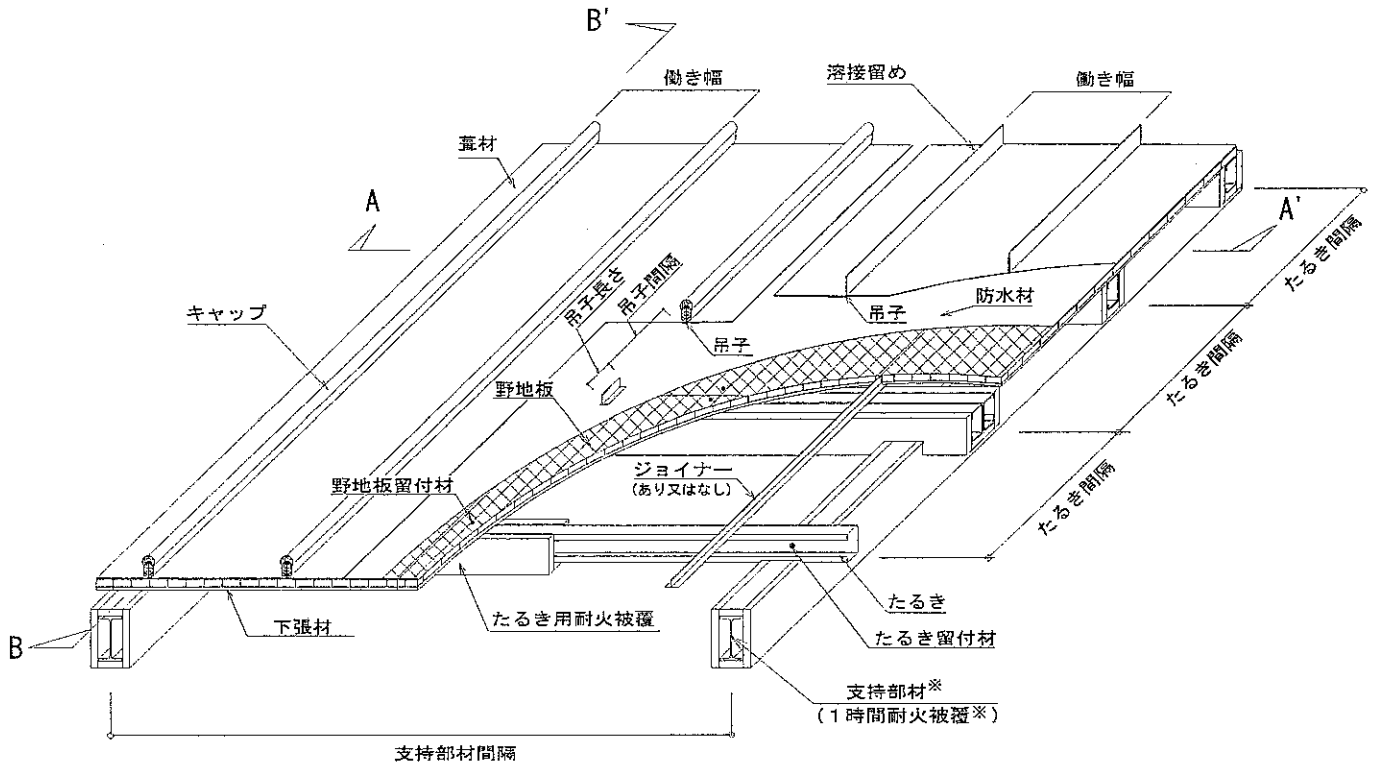
B-B' 断面詳細図

※評価対象外

図2 構造説明図〔①横葦仕様〕



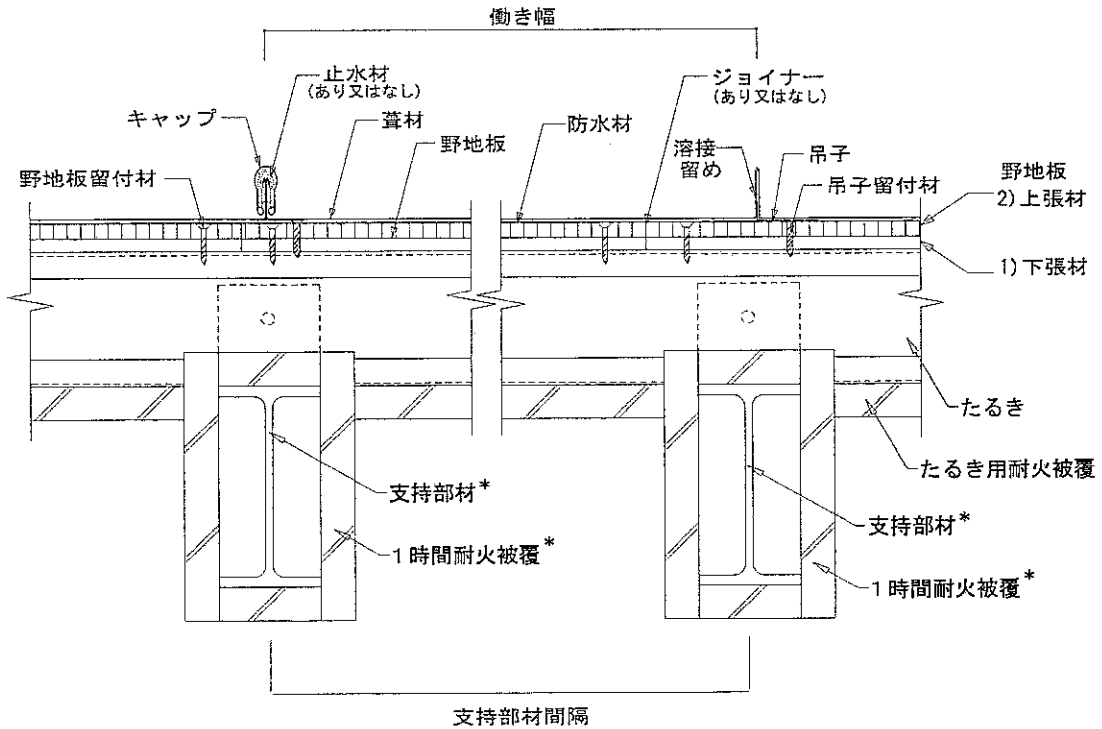
葦材断面



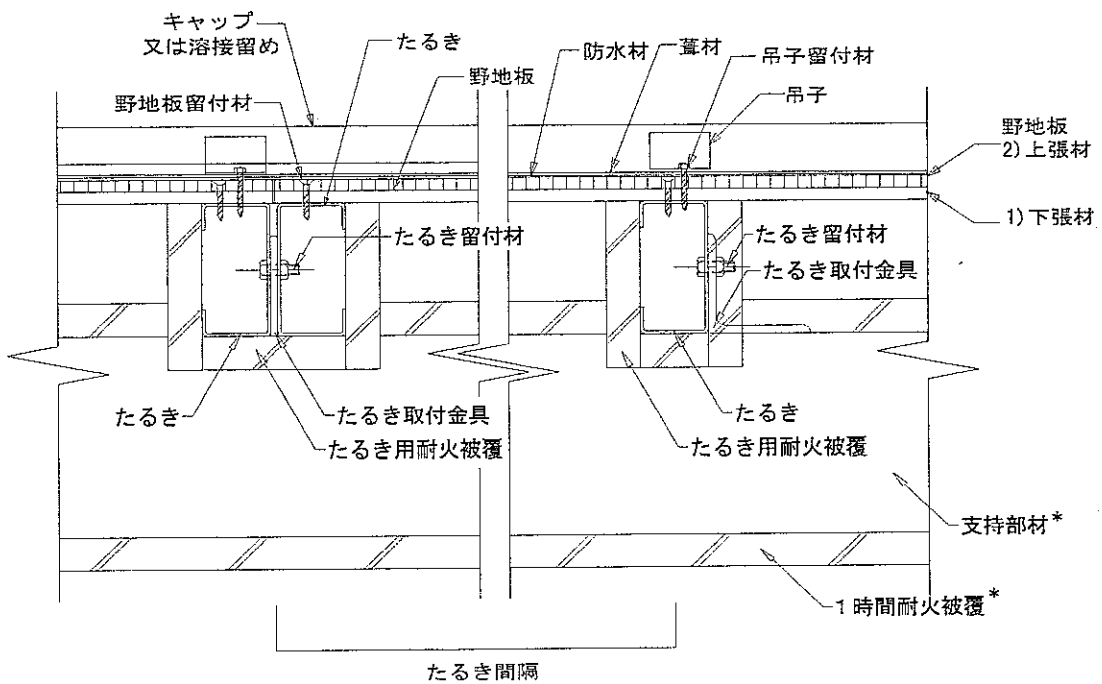
※評価対象外

透視図

図3 構造説明図〔②縦葦仕様〕



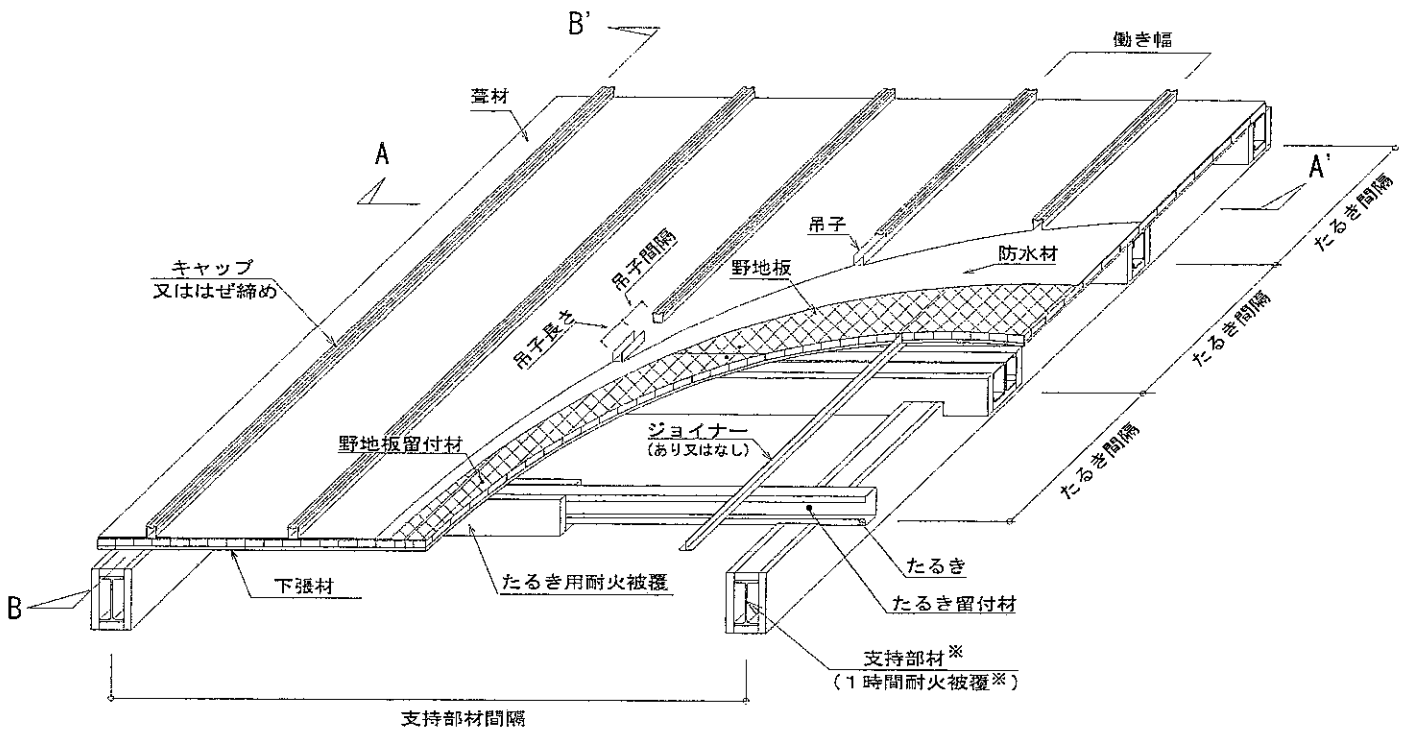
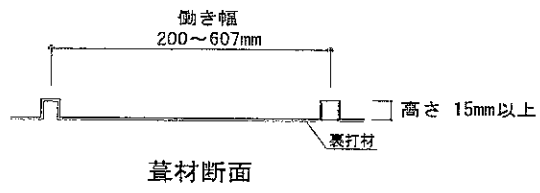
A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

※評価対象外

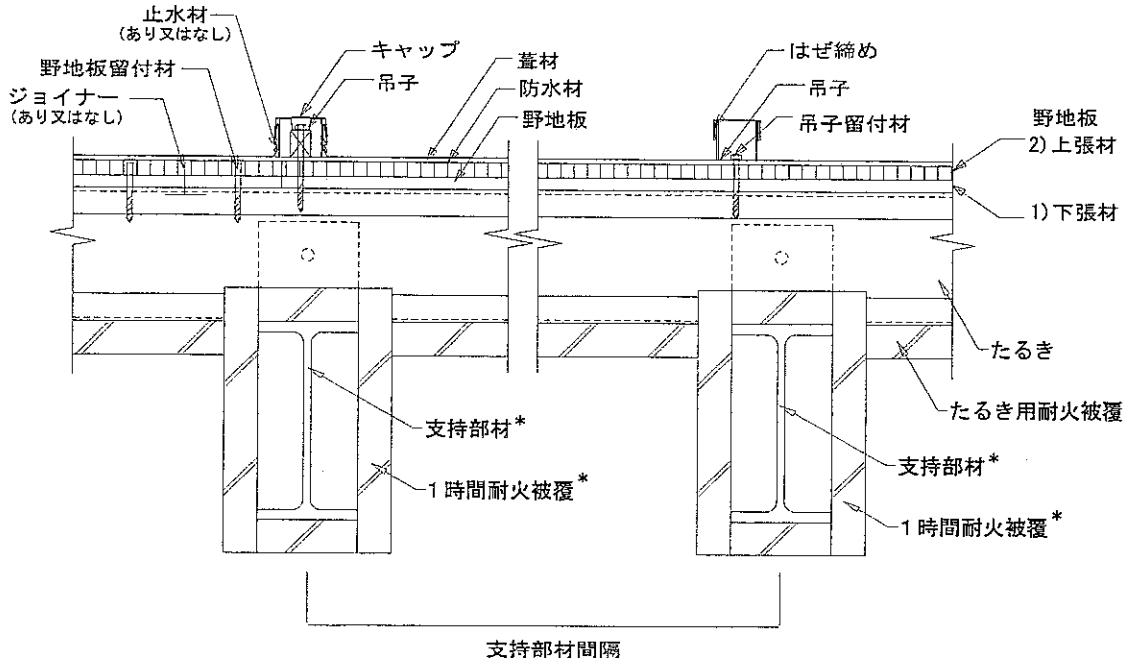
図4 構造説明図 [②縦葺仕様]



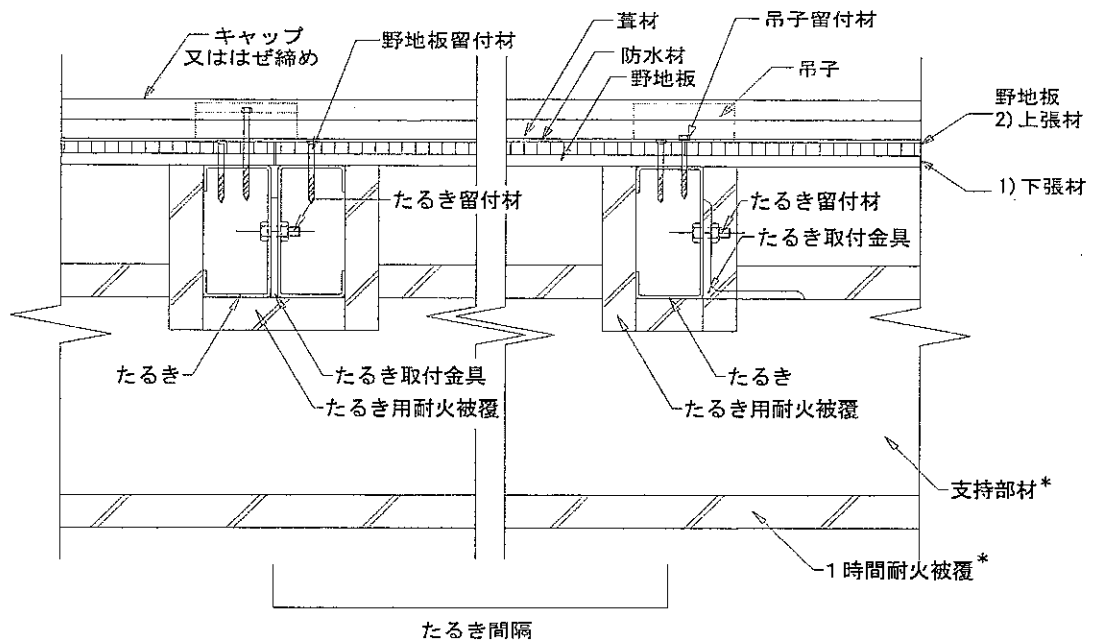
※評価対象外

透視図

図5 構造説明図〔③瓦棒葦仕様〕



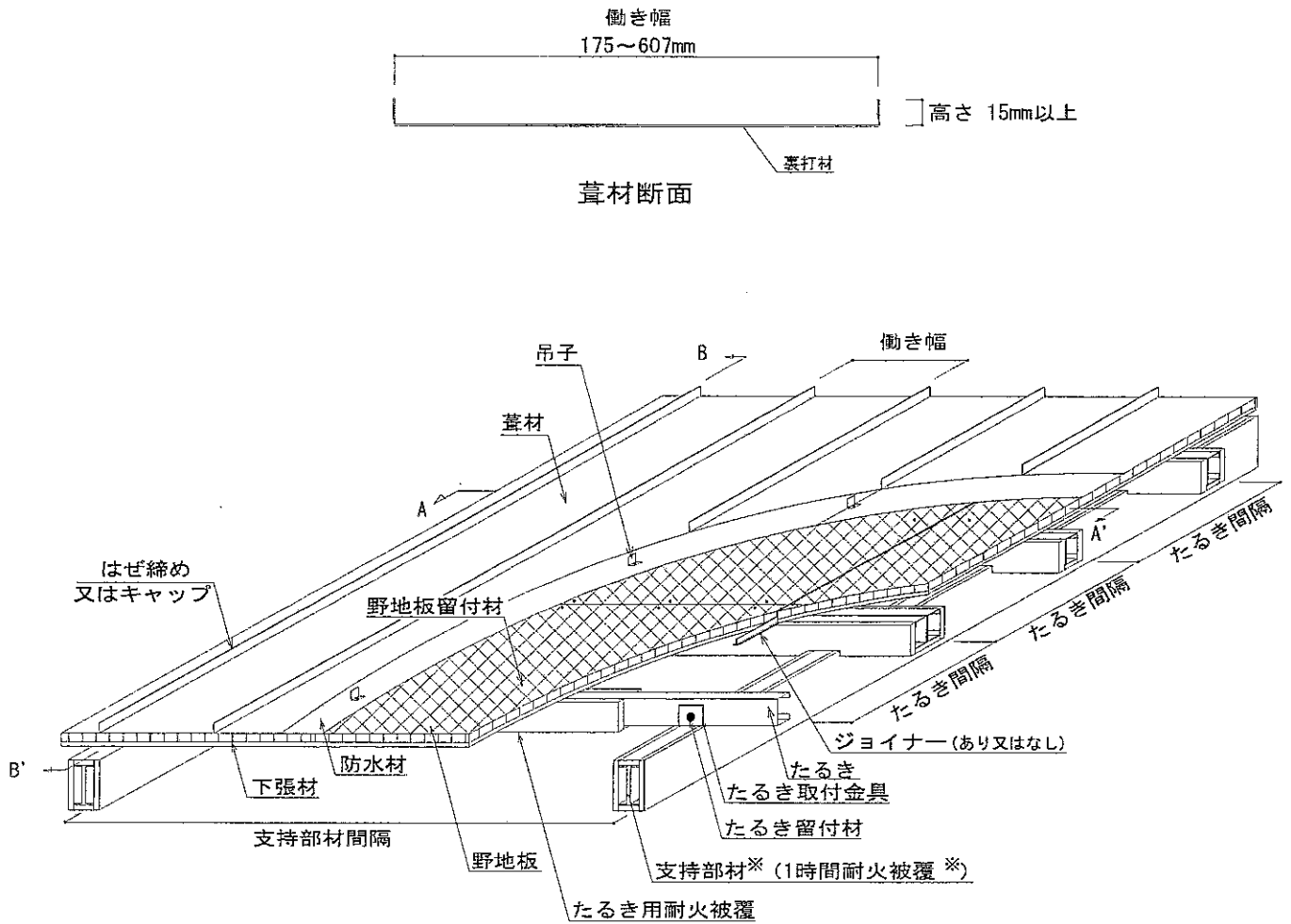
A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

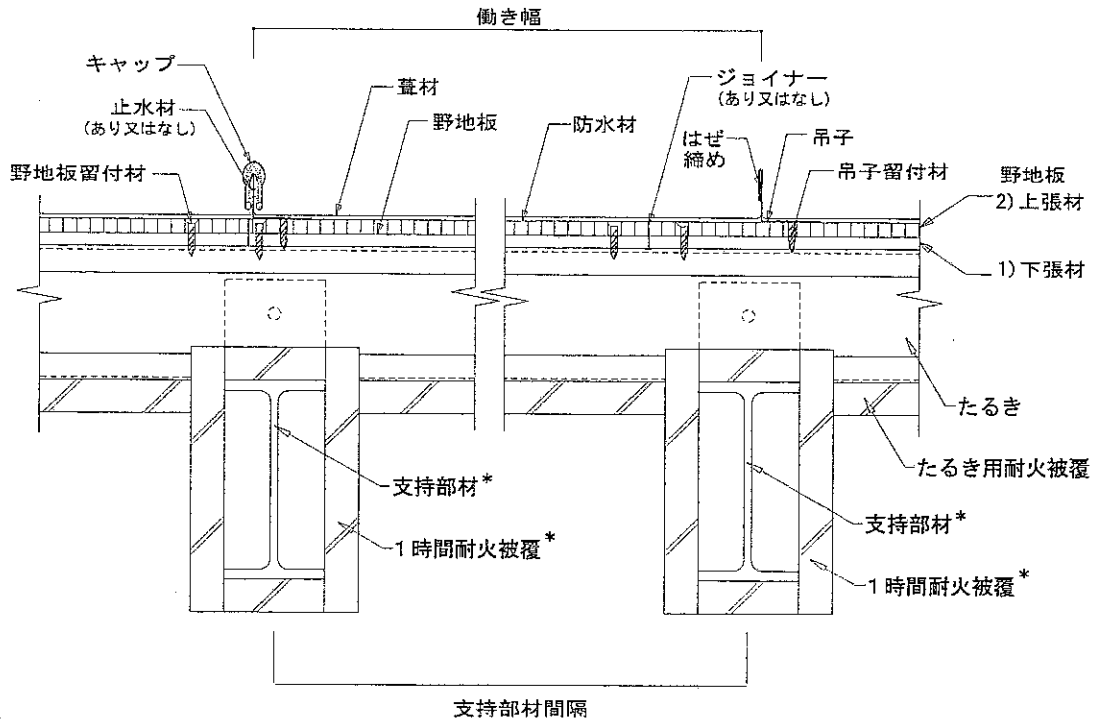
※評価対象外

図6 構造説明図 [③瓦棒葺仕様]

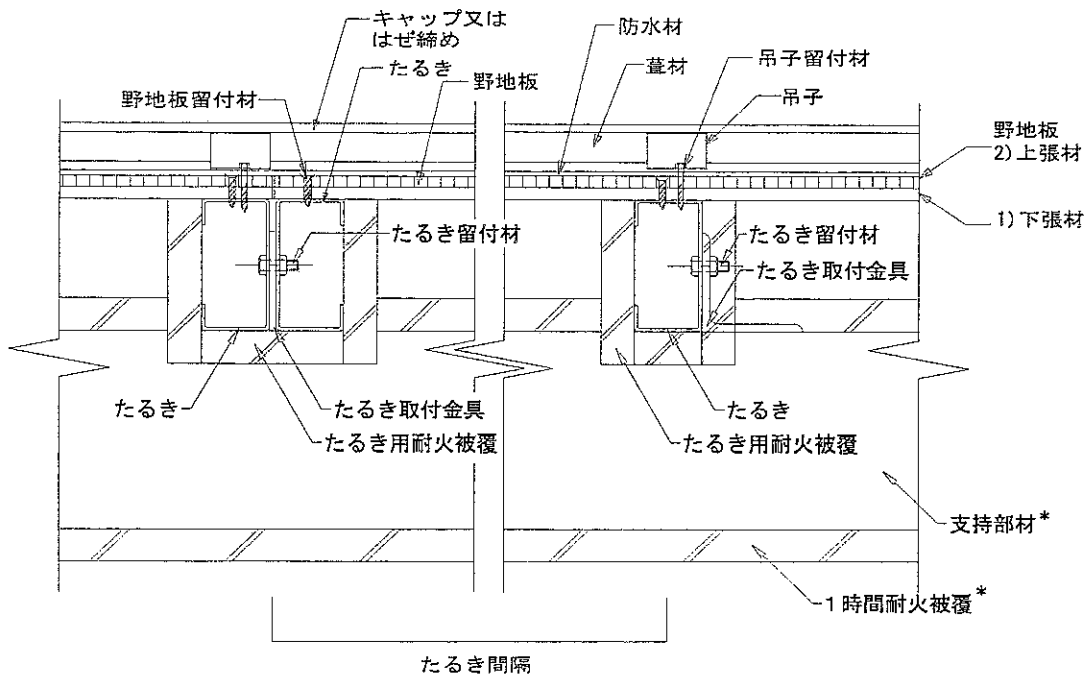


※評価対象外

図7 構造説明図 [④立平葺仕様]



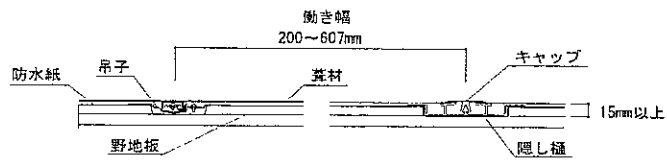
A-A' 断面詳細図



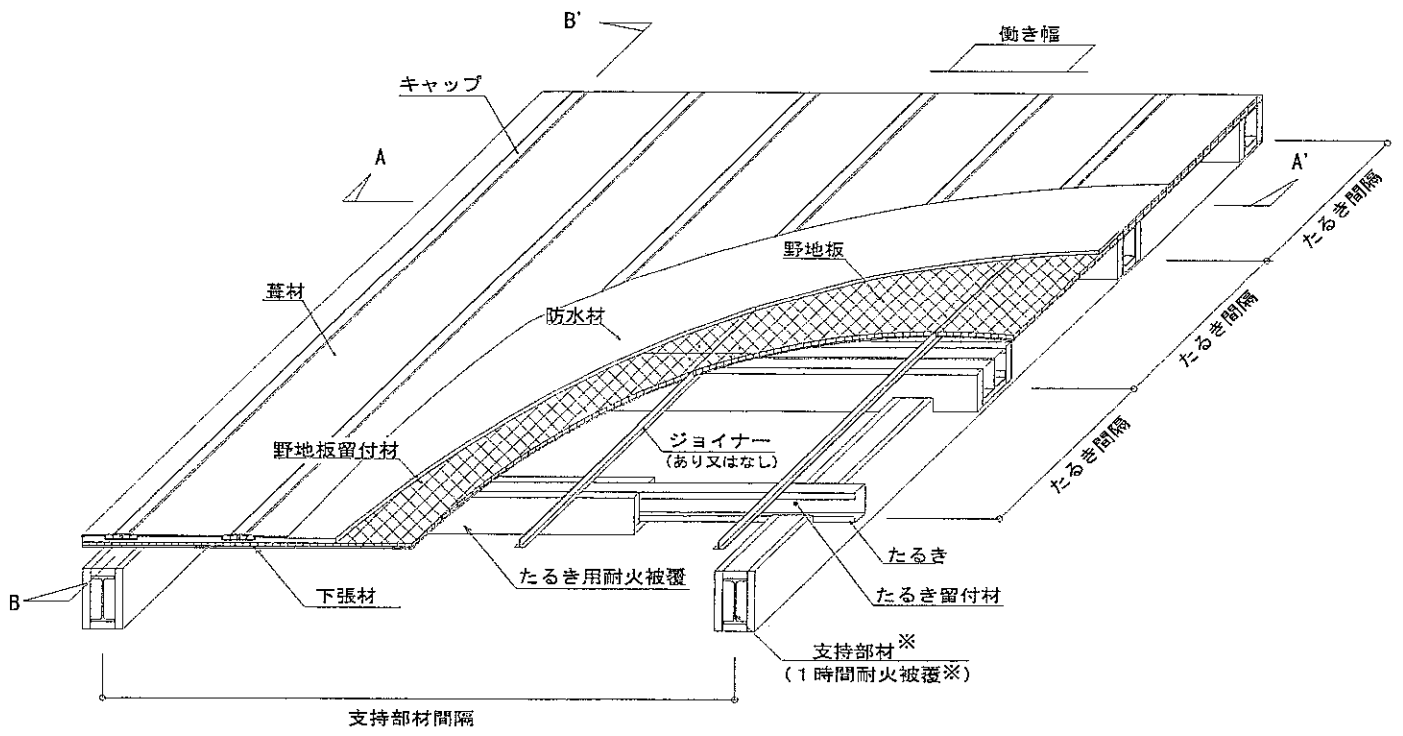
B-B' 断面詳細図

※評価対象外

図8 構造説明図 [④立平葦仕様]

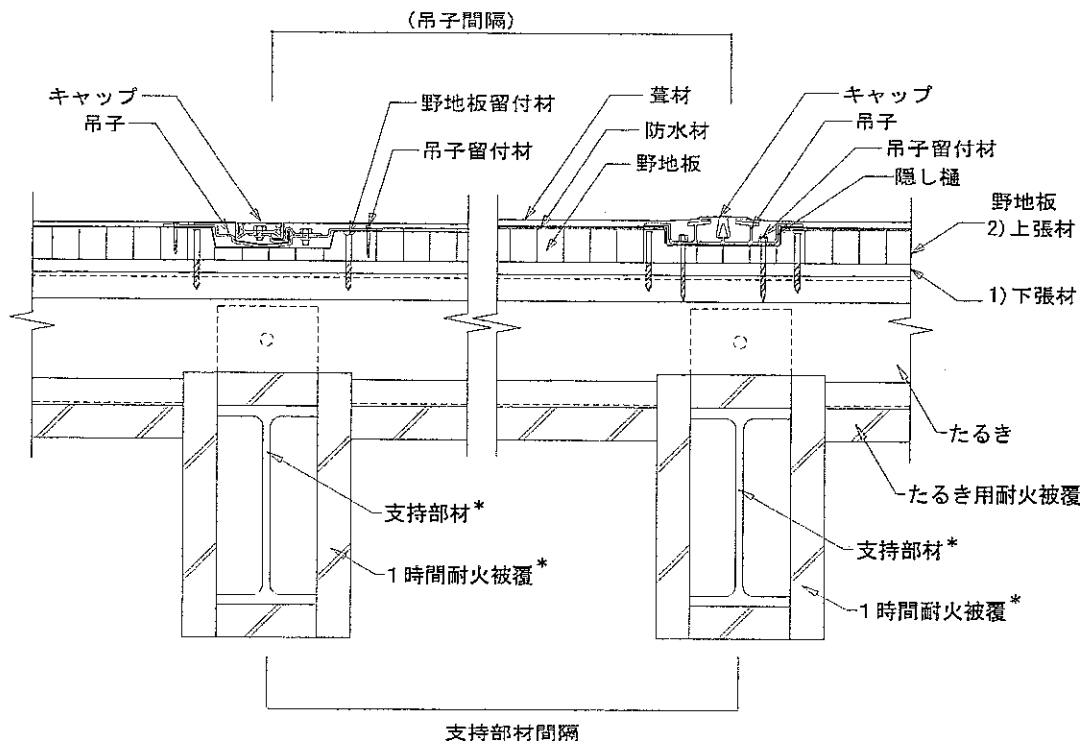


葦材断面図

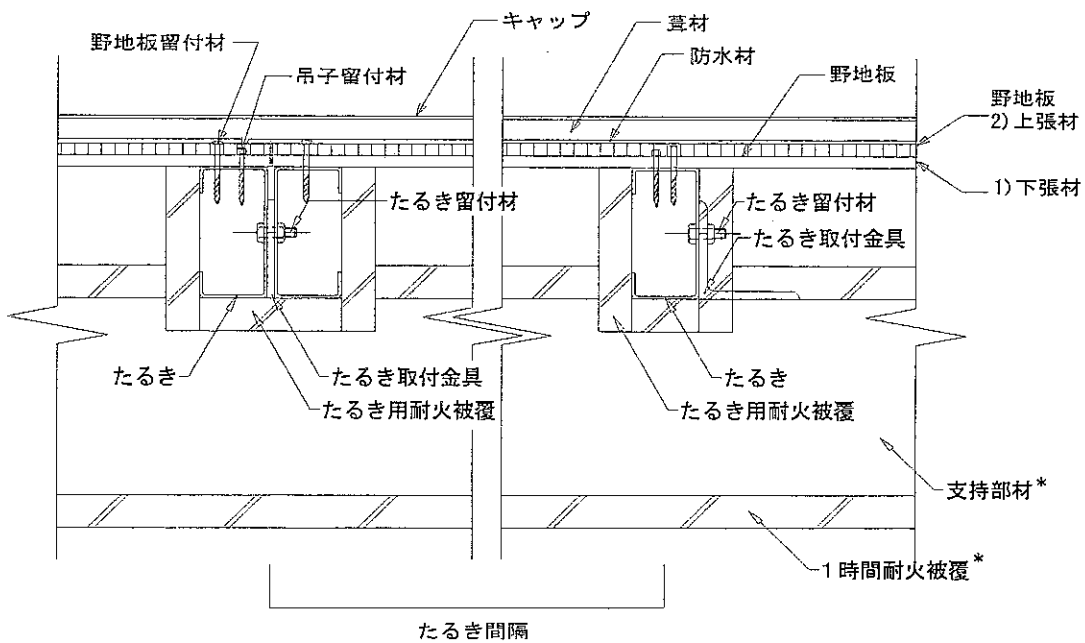


※評価対象外

図9 構造説明図〔⑤平滑葦仕様〕



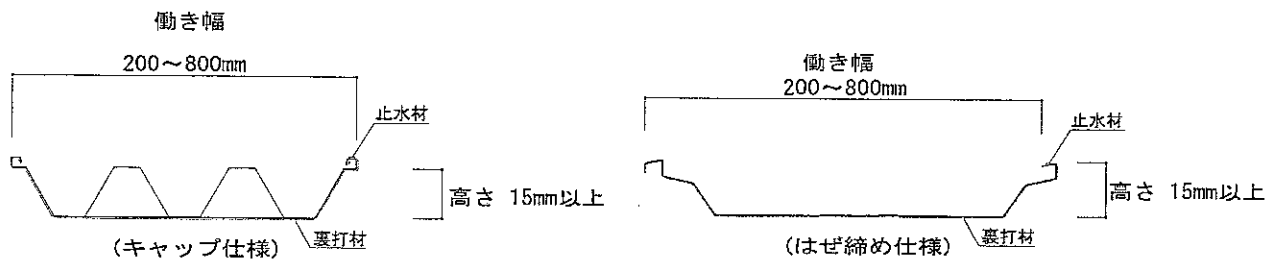
A-A' 断面詳細図



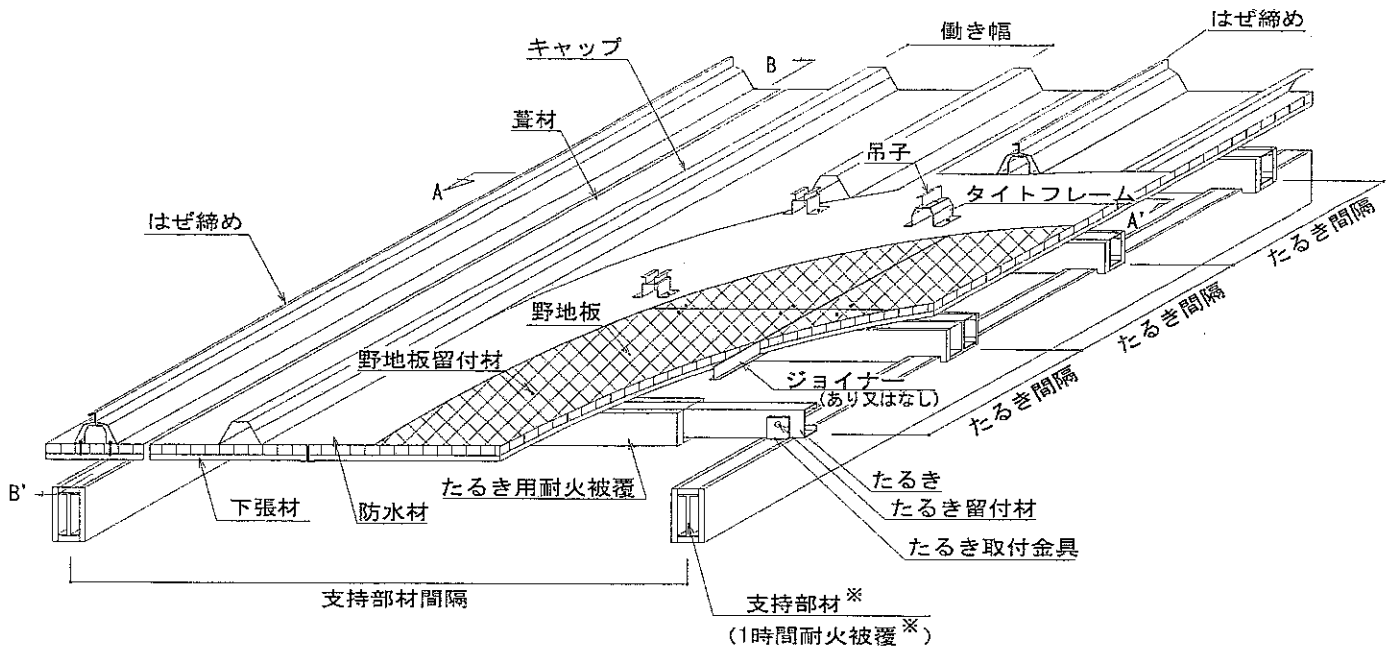
B-B' 断面詳細図

※評価対象外

図10 構造説明図〔⑤平滑葺仕様〕

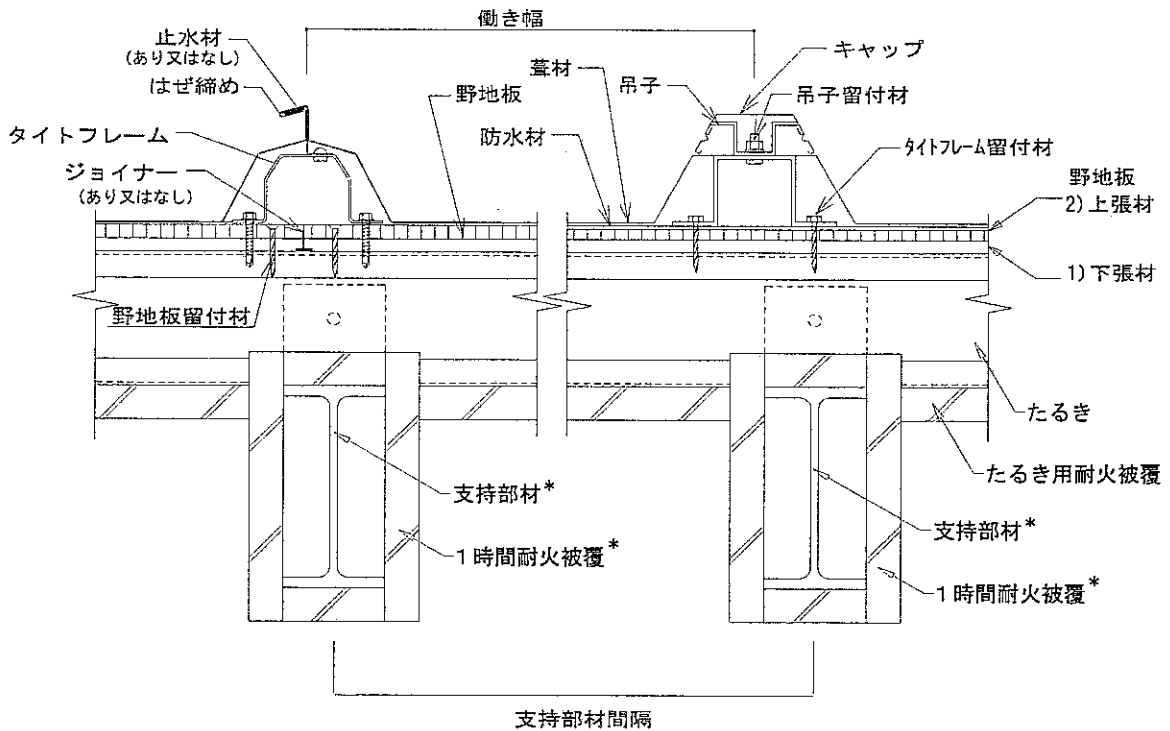


葺材断面

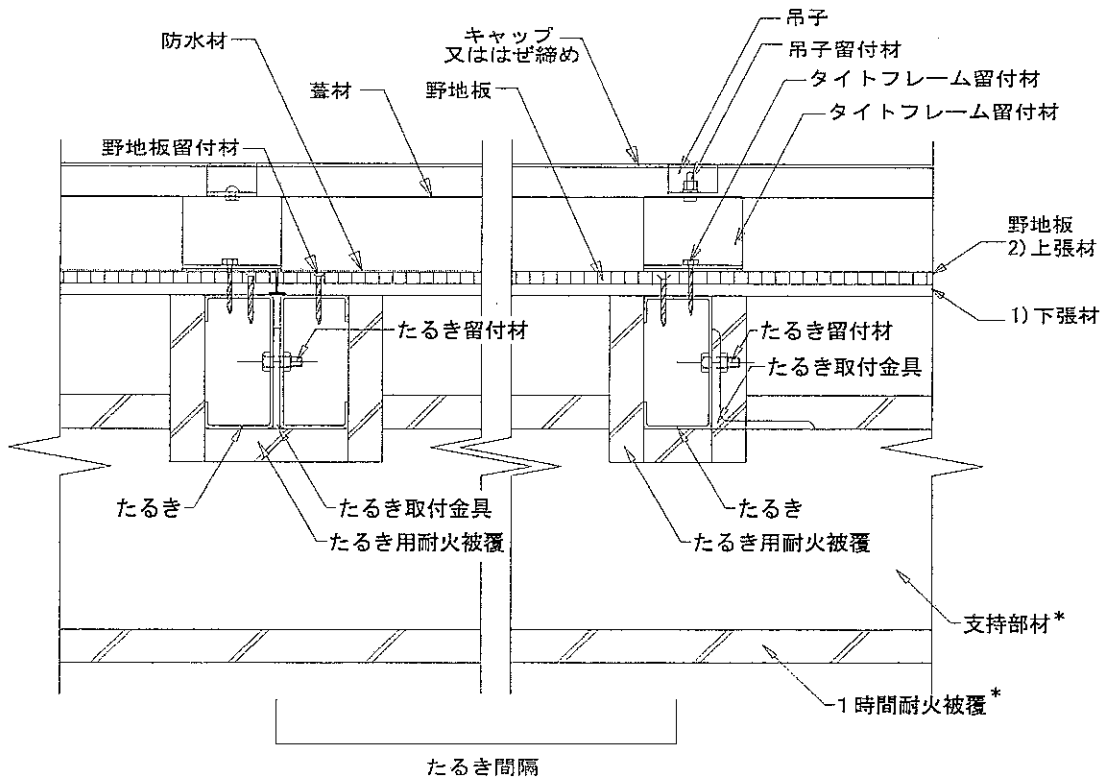


※評価対象外

図11 構造説明図 [⑥折板葺仕様]



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

※評価対象外

図12 構造説明図 [⑥折板葺仕様]

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

(1) 下地

- 1) 支持部材は「構造計算により構造安全性が確かめられた寸法」とし、支持部材には1時間耐火被覆を施す。たるきの形状・寸法及びたるき間隔は「構造計算により構造安全性が確かめられた形状・寸法及びたるき間隔」とする。但し、平成12年建設省告示第1399号第4号第三号への規定に該当する場合には、耐火被覆を施さなくてもよい。
- 2) たるき取付金具を、たるき間隔607mm以下になるように、支持部材に電気溶接等で取付ける。
- 3) たるき留付材を用いて、たるき取付金具に取付ける。
- 4) たるきにたるき用耐火被覆を張合材で取付ける。

(2) 吸音材料を用いる場合

吸音材料(JIS A 6301)をたるき上に敷き込む。

(3) 野地板の取付け

- 1) 割付図に従って、野地板・ジョイナー(使用する場合)を配置する。
- 2) 取付けは野地板用留付材を用いて、野地板端部から約100mm以内の位置でたるきに留付ける。その間隔は425mm以下とする。
- 3) 野地板はあらかじめ工場で張付けた複合板仕様※とする場合もある。
※複合板は、あらかじめ工場で吸音材料と木質系セメント板を張合材で張合せた野地板。

(4) 防水材の張付け

防水材を、重ね代100mm以上となるように野地板の上に敷き込む。

必要に応じてタッカー(工業用ステーブル(JIS A 5556) 内幅12mm-足長10mm以上@1000mm)で仮留めする。

(5) 屋根葺

金属板葺仕様

- 1) 葺き仕様：①横葺、②縦葺、③瓦棒葺、④立平葺及び⑤平滑葺の場合
 - ・吊子は吊子留付材でたるきに留付ける。
 - ・葺材は吊子に引っ掛け固着する。
 - ・②縦葺、③瓦棒葺、④立平葺、⑤平滑葺仕様はキャップを被せかして固定する。
但し、②縦葺、③瓦棒葺、④立平葺において、キャップを使用しない場合は、はぜ締め仕様とする。
- 2) 葺き仕様：②縦葺、④立平葺の場合
防水工法は嵌合部を溶接留めとしても良い。
- 3) 葺き仕様：⑥折板葺の場合
 - ・タイトフレームをタイトフレーム留付材を用いて取付け、その上に吊子を吊子留付材で取付ける。
 - ・葺材をタイトフレームと吊子に固定する。
 - ・キャップを被せかして固定する。
 - ・キャップを使用しない場合は、はぜ締め仕様とする。